



## 「安全・安心とリラックスした環境の中で」

校長 門脇 伸也

学校の入り口に植えられた桜の木からは、枯れ葉が落ち、乾いた葉が木枯らしに舞う季節となりました。新型コロナウイルス感染症は、新たな株による感染拡大が始まり、東京都では日々の感染者が一人を越える日も出てきました。予想していた時期より早い「第8波」の到来に、本校としては警戒感を隠せません。

さて、ありがたいことに2学期は予定したとおりの教育活動を行うことができました。中でも第23回運動会を開催できたことは喜ばしく、児童・生徒たちが競技に取り組む姿から学校生活での課題にどのように挑んでいるのか、ご家族にその一端をご覧いただけたことは、何よりの成果でした。さらに、感染症予防対策による入構制限について、PTA代表の方と前向きな協議を行えたことにより、校内の感染症対策がより具体的な形へと整えられていったことも一つの成果と捉えております。まだまだ新型コロナ終息までの見通しが立ちませんが、学校生活における安全・安心を浸透していくには細かなところへの配慮が必要です。お気づきのことがありましたらご一報ください。

ここで話題は変わりますが「スヌーズレン授業」という言葉をご存じでしょうか。このスヌーズレン授業は「一般に教室内をうす暗くして、対象児童の好む光や音楽、香りなどをを用いた多重感覚環境を教室内に設定して、教員と対象児が共感を重視して行う」と言われています。また、「特別支援学校では重度・重複障害の自立活動、特別活動の一環として取り入れられている」「リラックスした環境の中で、子どもたちの五感を刺激しながら、感覚受容を促す活動」とも言われているものです。改めて、このことを思い出したきっかけは、11月18日に小学部6年生の一日校外学習で、アートアクアリウム美術館（日本橋銀座三越新館8階）へ訪れたことでした。明るい入口から薄暗い廊下を教員が児童の車いすを押しながら移動して行くと、ほのかな光や香りのする空間があり、耳にやさしい音楽が聞こえてきます。この空間にいて教員も児童も心地よさに共感していました。そして、先へ進むと色とりどりの金魚が、様々な形のたくさんの水槽の中を泳いでいました。この水槽を無心に見つめている児童の姿とアートアクアリウム美術館内の構成から、頭の隅にしまっていた「スヌーズレン授業」を思い出しました。ある論文では「重度・重複化している主に肢体不自由特別支援学校の現場では、スヌーズレン授業は情緒の安定を促したり、興味・関心を引き出したり、注視・追視を促したり、身体の動きを引き出したりする。対象児の教育的ニーズから見て必要とされている教育である」と紹介されています。肢体不自由教育の教育課程（教育活動の計画）は、対象となる児童・生徒の障害特性から、とてもゆるやかな構成となっています。なぜなら、身体は麻痺や筋緊張、痙攣により自分の思うような動きがとれなかったり、車いすをはじめとする支援機器を使用することで、とてもエネルギーを消費したりするからです。だからこそ、一つ一つの取り組みに時間をかけて丁寧に取り組んでいます。肢体不自由教育は、安全・安心とリラックスした環境の中で、日々の教育活動を取り組んでいくと言ってもよいものでしょう。

これからも、保護者及び地域や関係機関の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

12月は17日間の登校日となり、瞬く間に年の瀬を迎えます。ますます寒さも増す中、皆さま御身体を大切にお過ごしください。



## 「運動会を終えて」

小学部

11月5日(土)、第23回運動会を本校体育館にて行いました。児童・生徒が各学習グループ・中学部に分かれて、競技や演技を行いました。新型コロナウイルス感染症の対策として、各家庭2名の保護者にご参観いただき、オンライン配信も同時に行いました。

今年度の運動会では、「WE CAN DO IT かがやくひまわりのようにがんばろう」をスローガンに、子どもたち一人一人が自分自身の課題に、一生懸命取り組んで練習してきました。本番では、普段とは違う雰囲気、緊張や戸惑いを感じる子どもや、楽しさや高揚感を感じる子どもの姿がありましたが、一人一人の個性が輝いた演目となりました。

子どもたちが運動会という行事を通して、いろいろな感情に触れ、また一つ、成長の一步になったと思います。運動会で見つけることができたそれぞれの課題や成長を、今後の授業に生かしていきます。



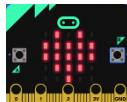
## 「ICTを使った学習～電光掲示板の作成」

教務 ICT 担当

つくしばらグループでは、グループ活動の時間に、マイクロビット(英 BBC で開発された教育用のマイコンボード)を使った電光掲示板の作成に取り組みました。まずは街中の電光掲示板がどんなものかを見てみました。

マイクロビットに配置されている縦5列×横5列のLEDを使うと形や文字が表示できます。複数台を組み合わせて電光掲示板を作ります。

子どもたちは、iPadを使って、マイクロビットに表示したい形を作る練習をしました。続いてグループごとに分かれ、電光掲示板のアイデアを出したり協力し合いながら、みんなで一緒に1つの電光掲示板を作りました。



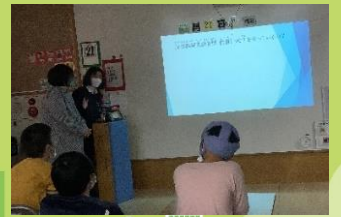
## 「新宿区新宿福祉作業所による出前授業」

支援部

中学部では、11月21日(月)に障害者福祉センター3階の「新宿区立新宿福祉作業所」の方を講師に招いた、進路指導の授業を行いました。

新宿福祉作業所ではどのような活動や仕事が行われているか、スライドで分かりやすく説明していただいた後、事業所で行われている仕事の一つの「缶バッジ作り」を体験しました。生徒は、自身の作成した作品が店頭に並べられる事などもイメージできていたようです。

中学部では、総合的な学習の時間や自立活動の時間に、「紙バックポーチ」や「リボンレイ」作りなどを行っています。このような作業的な学習が、進路先での活動に繋がることを、生徒自身が実感する機会になりました。



## 研究部より

小学部

小学部つくしグループでは、子どもたちの興味・関心を引き出し、理解力を高める効果的な手段として、各教科の担当が工夫を凝らしてタブレット端末やその他 ICT 機器を活用した授業を行っています。

高学年つくしグループでは、2学期に国語の授業でスイミーの読み聞かせや登場人物の気持ちを考える授業を行いました。普段は大型絵本を用いたり、モニターに映したりして読み聞かせを行っていますが、今回はプロジェクターを利用し、海の世界が児童の目の前に広がるようにしました。透明シートに描いた魚たちが影絵のように映し出され、物語に合わせて動き出すことで、普段読み聞かせの途中で集中が途切れてしまう児童も、目の前の海の世界や登場人物の動きに注目し、最後まで集中して話を聞く姿が見られました。

低学年つくしグループでは、国語の授業で年間を通して平仮名の学習に取り組んでいます。平仮名の書き順や見本の提示として、プロジェクターと電子ペンを用いて、児童と授業者が同時に書ける工夫をしています。

様々な ICT 機器の活用においては、使うことを目的にするのではなく、子どもたちが楽しく学び、理解することができる授業を展開していくための手段の一つとして活用を進めていきたいと思ひます。

